

健全育成シリーズ(99)

子どもを見る眼



「おとなはだれも、はじめは子どもだった。(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)」とフランスの作家、サン＝テグジュペリは、『星の子さま』の中で言っています。これは、大人がかつての童心を取り戻すことの大切さを述べているのでしよう。今は、私たちの子ども時代と比べ、豊かになり、子どもを取り巻く状況も大きく変わってきていますが、子育て中の親の立場から見ると、この姿勢をもって、子どもの気持ちを理解していくことは必要なことだと思えます。多くの親は多分、これに自分の子どものころの体験を加味し、また、他方では現在の大人の立場を基準にして子どもの心を解釈しようとしていることでしょう。しかし、自分が子ども時代の経験者であることに安堵感を持ち、真の子ども心理を理解する努力をせずに簡単に結論を出すことは誤解を生むことが多くあります。それは、親にはどうしても、感情の眼鏡をかけて自分の子どもを見ている特殊な心理(親心)が働き、どうしても感情的になり、理性的に見れな

くなっていることもあるからです。また、子どもは親の影響を強く受けていることは、周知の事ですが、親の持っている態度に、子どもがどのように影響されているのか、子どもはどんな思いでいるのかなど、かなり意識してみなければ、なかなか十分に理解しきれないものだからです。ですから、まず、このように結びついている中で親子関係があるということを確認しながら、子どもを見ていかなければ、正しい理解にはつながっていきません。

さて、それでは、子どもをどのようにして見ていったらいいのでしょうか。先に親は特殊な眼鏡で子どもを見てしまいがちになってしまふと述べました。子どもに対する愛情により、そうやってしまうのはあたり前のことです。しかし、それを一歩踏み越え、第三者的に見る眼が必要になってくると思えます。つまり、親は子どもを見る「ものさし」の幅をより広げたり多くしていくことです。それには、親の前で見せていない部分を見ている子どもの友達や教師など子どもを取り巻く様々な人々に子どもの姿を語ってもらうことも必要でしょう。また、普段目に付きやすい欠点を逆に長所としてみるなど発想や視点を変えてみるようにすることもあるでしょう。さらに、子どもが親をどう見ているのか、

尋ねるなど、この子は、いったいどのような「ものさし」でものを見ようとしているのかを考えてみるのも大切ではないかと思えます。

このようにいろいろと角度を変えて見ることににより、子どもが一層見えてくるようになりますので、親としては、良い悪いの判断をしがちになりますが、それらの事柄は、人間としての価値の大きさには全く関係ないもの(人間は誰でも同じ価値ある存在)ですから、まずは全て認めて受け入れてあげ、親がそうしてくれているという子どもに伝えていくことが大切です。

子どもは、成長していこうという気持ちを潜在的に持つています。ですから、子どもが持っているたくさんの良いものを子どもに示していくことにより、子どもは自信を持ち、さらに、子どもは自分が価値あるものと気付き、自立していくこととなります。他人が何を言おうと、親が「これがこの子の良い点」と思ったら、素直に親の気持ちを子どもに伝えていくことが大切です。大人もそうですが、子どもも認められ、さらに誇りとされていければ、一層がんばろうと思うはずですよ。

大事なことを見つけるには、ちょっと見方を変える努力が必要なきもありませんが、見えないことはないでしょう。どの親もみんな、子どものことを誰よりも一番良く知っているはずですよ。

伝言板
大月保健所

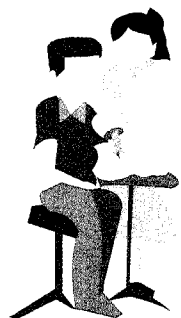
大月市大月町花咲1608-3
☎(22) 7824

家庭での卵の
取り扱いについて

- 「卵類および卵加工品」によるサルモネラ食中毒が増加傾向にあるので次のことに注意しましょう。
- ▼卵はきれいで、ひび割れのない新鮮なものや、日付を確認して購入しましょう。
- ▼購入した卵は、すぐに冷蔵庫(10℃以下がめやすです)に入れましょう。
- ▼卵は料理に使う分だけ、使う直前に割って、すぐに調理しましょう。決して割ったままの状態を放置しますと、細菌が増殖しやすくなり危険です。
- ▼ゆで卵は、沸騰水で五分間以上加熱しましょう。
- ▼卵かけご飯、すき焼き、納豆など卵を生で食べる場合には、直前に殻を割るようにしましょう。
- ▼老人、二歳以下の乳幼児、妊娠中の女性、免疫機能が低下している人などは、生卵(うずらの卵を含む)は避け、できる限り十分加熱した卵料理を食べるようにしましょう。

看護婦などの再就職
相談を行っています

あなたの技術を再び社会に
生かしてみませんか



高齢化社会を迎え、病に苦しむ人々の看護とともに、高齢者の看護もますます必要となってきました。しかし、ご承知のように、県内では深刻な看護不足の状況にあります。

現在就業していない保健婦士、助産婦、看護婦(士)、准看護婦(士)の免許所有者で

▼機会があれば再び看護の仕事に戻りたいと考えていらっしゃる方

▼どこに相談してよいかかわからない方

を対象に相談窓口を設置いたします。

*相談は、保健所職員により随時行っています。

*相談を通して知り得た個人に関する秘密については厳守します。気軽に相談ください。

問合せ
大月保健所 保健指導課